

小学校・中学校 総合的な学習の時間

重点１ 探究的な学習の過程を中心に据える

探究的な学習の過程が繰り返される学習になるようにしましょう。

- 「探究的な学習の過程（課題の設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現）」が繰り返される学習となっている。

重点２ 学習内容、学習方法を見直す

学校ごとに「目標」および「内容」を定め、全体計画や年間指導計画を作成しましょう。「内容」は「目標を実現するにふさわしい探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなります。

- 児童生徒にとって必要感のある課題，実社会・実生活に係る課題を取り扱い、児童生徒の興味・関心等に基づく学習となっている。
- 他者と協働して課題を解決しようとする学習となっている。
- 自然体験や職場体験，ボランティア活動等の体験活動，地域の教材や学習環境を積極的に取り入れている。
- 小・中・高の連続性，発展性を意識した学習内容になっている。

重点３ 各教科等との関連を図る

横断的・総合的な学習を行う観点から、各教科等との関連を図ることを意識しましょう。

- 総合的な学習の時間における取組と各教科等における取組がどのように関連しているか意識して指導している。
- 各教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など）を育成する取組となっている。
- 単元配列表を作成・活用し、育成を目指す資質・能力で各教科等をつなぎ、指導している。

○小・中・高を通じて身に付けさせたい資質・能力（目指す子どもの姿）

- 実社会・実生活における課題に対して粘り強く解決に向かって探究している。
- ・島根の現状，地域の現状を理解し、自ら課題を発見している。
 - ・唯一の正解が存在しない課題にも、様々な教科等で学んだ見方・考え方を総合的に活用している。
 - ・様々な他者と協働する中で、互いの資質・能力を認め合い、相互に生かし合っている。

○総合的な学習（探究）の時間の評価について

評価の観点は、学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定するという総合的な学習の時間の特質から、**各学校が設定するという枠組みが維持されていますが**、資質・能力の三つの柱で再整理された学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進するためにも、資質・能力に関わる「**知識・技能**」，「**思考・判断・表現**」，「**主体的に学習に取り組む態度**」の**３観点に整理し示されました**。

なお、指導要録については、これまでどおり，実施した「学習活動」，「評価の観点」，「評価」の三つの欄で構成し，その児童生徒のよさや成長の様子など顕著な事項を**文章で**記述します。

○「総合的な学習（探究）の時間ガイドブック」配付

小・中・高の連携による一貫性をもった「総合的な学習（探究）の時間のあり方」を普及するために、ガイドブックを配付しています。

<https://eio-shimane.jp/class-making/982>



高等学校 総合的な探究の時間

重点１ 課題を発見する過程を重視する

生徒自身が、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を発見し設定するプロセスや時間を確保しましょう。

- 生徒が実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立てることができる学習となっている。

重点２ 学習内容、学習方法を見直す

学校ごとに「目標」および「内容」、「方法」を定め、全体計画や年間指導計画を作成しましょう。特に、学習過程を探究の過程にすることを意識しましょう。

- 「探究の過程（課題の設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現）」が発展的に繰り返される学習活動となっている。
- 他者と協働して主体的に課題を解決しようとする学習となっている
- 体験活動，観察・実験・実習・調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れている。
- 小・中学校の取組の成果を生かした、高等学校にふさわしい実践が展開されている。

重点３ 各教科等との関連を図る

横断的・総合的な学習を行う観点から、各教科等との関連を図ることを意識しましょう。

- 総合的な探究の時間における取組と各教科等における取組がどのように関連しているか意識して指導している。
- 各教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など）を育成する取組となっている。
- 複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせる学習となっている。

全体計画（例）

出典：「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 小学校編」令和３年３月 文部科学省 P.77 より抜粋

